

# 学問凝勿 383

## 研究と政策の間にある長い距離 QALY 概念の経済学説史における位置

2012年9月21日  
慶應義塾大学 商学部  
教授 権丈善一

講演録の校正が最も苦手な仕事——というのは、私の中では超有名な話で、次の冒頭にも書いている。

学問凝勿 228 [えにしの会での事前講演録？——小さすぎる政府の医療政策と日本の医療保険](#)

ということで、医療科学研究所主催の「[医療技術評価 \(HTA\) の政策利用：諸外国の状況とわが国における課題](#)」に呼ばれて、20 分間の講演をと頼まれたので、こういう研究所主催のシンポは、後で立派な報告書を作るだろうから、後日、講演録の校正を頼まれて、やらなければならないという思いと、やりたくないという思いの葛藤の中、締切を過ぎてしまって、事務局に迷惑をかけているんだけども、やっぱり全然やる気が起こらない・・・という塗炭の苦しみを避けるために、事前に講演録を作っておこうと思って出かける。

公開しておきます——当日のアドリブも挿入済みバージョン

[研究と政策の間にある長い距離——QALY 概念の経済学説史における位置](#)

当日の配付資料

[研究と政策の間にある長い距離 \(PPT\)](#)

[研究と政策の間にあるはずの長い距離の自覚と無自覚](#)

シンポジウムは、医療科学研究所主催では最大規模の予約者、出席者であつたらしく、私としては、冒頭、「本日は、なぜ、こういう場所に私が呼ばれてしまったのか・・・」と、ぶつぶつと嘆きで開始するのを、じっと我慢してよかったと思った次第。

医療科学研究所から声がかかったとき、出席するための条件として、HTA 研究者である福田先生が 1 番、よそ者の私は 2 番で、福田先生が 30 分なら私は 20 分等々、いろいろとこっちから出した要望が多かったシンポジウム。大勢の方々に出席して頂き、賑わってよかったです。

反省点

事前講演録(?)を印刷して抱えて行ったのだが、スライドのために照明を落とした大会場では、10.5 ポイントは、すでに読めない・・・次回は、14 ポイント、もしくは、16 ポイントだな。